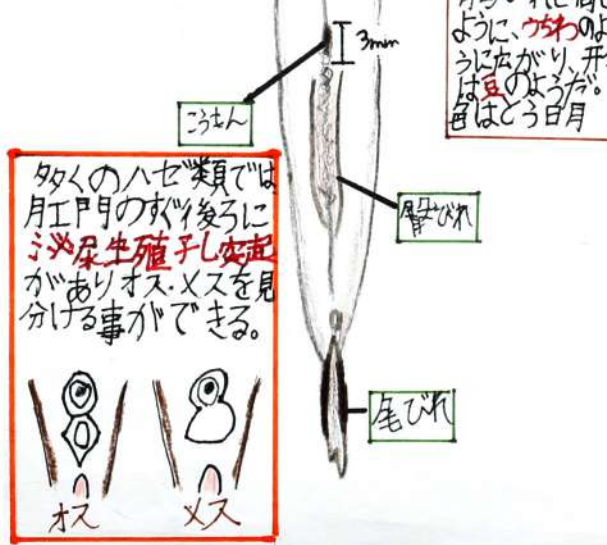
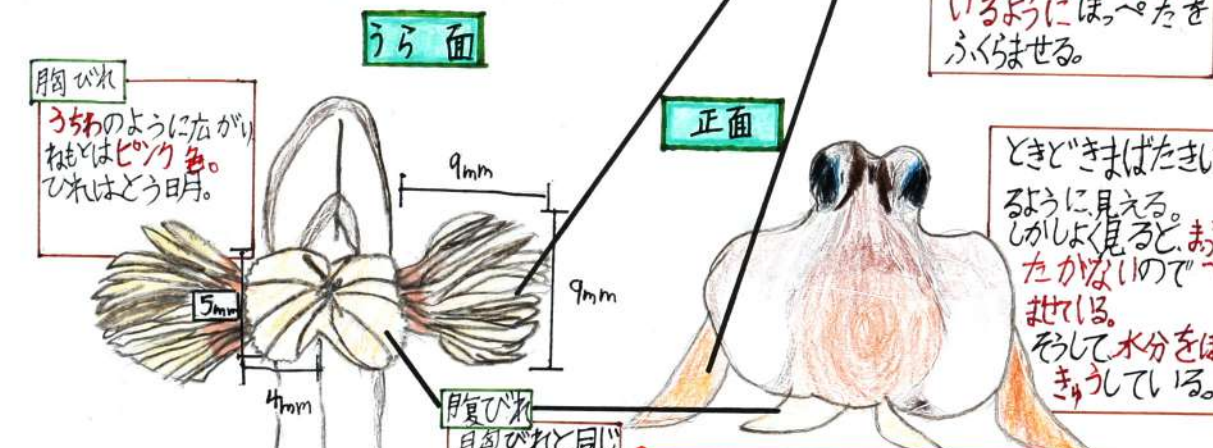
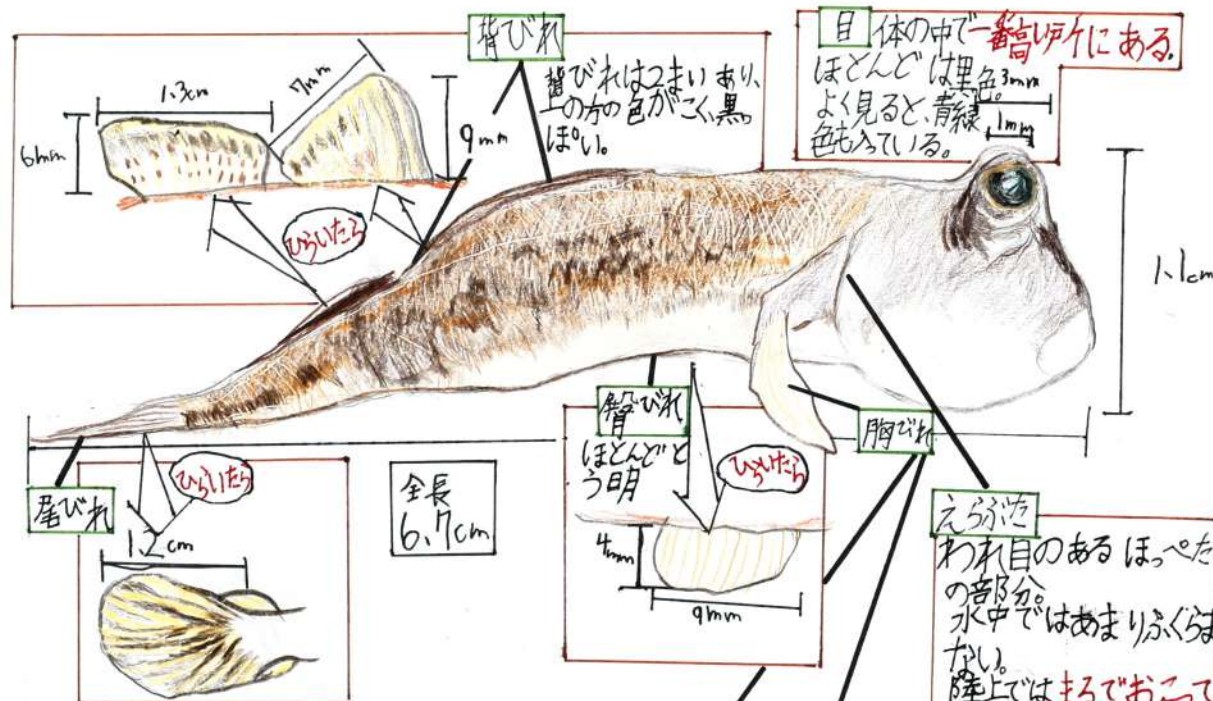


# こんなにおもしろい!! トビハゼにせまる!!

スズキ目 ハゼ科 トビハゼ属 トビハゼ



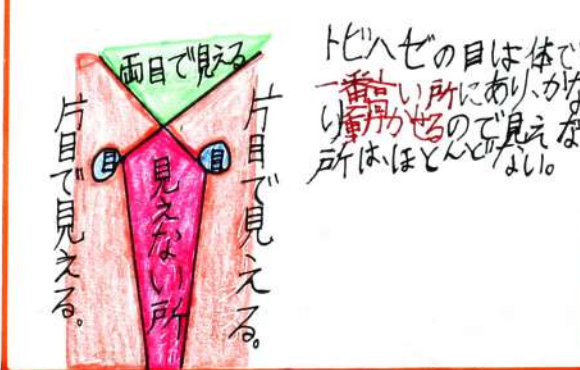
目 体の中で一番高いところにある。ほとんどは黒色3mm、よく見ると青緑1mm、色も入っている。

背びれ 背びれは2まいあり、上の方の色が黒く、黒い。ほい。

えらぶた われ目のあるほぺたの部分。水中ではあまりふくらまない。陸上ではまるでおこっているようにほぺたをふくらませる。

ときどきまげたまいてるように見える。しかしよく見るとおたかないのでこぼれている。そして水分をまきあげている。

近づくとすぐにはげってしまう。とても目がいいとかんじた。



くどうき ぼくはトビハゼが陸上にいる魚だと知り、不思議だなと思いました。トビハゼについてかんさつしたり調べたりしてトビハゼのことを知りたいと思いました。

くトビハゼとの出会い お父さんと江戸川のひがたに行き、トビハゼをつかまえてかいはいしました。ひがたに行った日: 2018年、5月6日(日) 14:30ころ (まじょう時 ころ 7:24, 21:49・かじょう時 ころ 2:17, 14:32)

場所: 江戸川ちぐ水路 東京わんと江戸川のさかい目 東京わんのトビハゼは日本の北に住むトビハゼです。かんじょう時にあわせていたのでとてもドロドロで「革化」がぬけてしまうほどでした。

- くかんさつしてかんじたこと
- ・体の半分より上はこげ茶色っぽい。6月に入ったころから少しピンクっぽくなった。
  - ・体の半分より下は白っぽい。
  - ・重たきは早い。まるで人間も重たきをしているようだった。
  - ・陸上にいる時も皮膚はいつもぬれている。
  - ・陸上にいる時はヒレをおりたたんでいる。水中に入るとヒレを開く。
  - ・胸びれを使って歩いていた。
  - ・歩き方: 胸びれをオールのように使い、体を持ち上げて前に進む。ホトをこ重たきにはしている。
  - ・陸上で前進する時は体が真だ。
  - ・ソソグをする時は尾音部から体をS字にくわらせる。尾音部で地面を踏むようにしてジャンプをする。
  - ・水そうや流れがはらに集り水ごとがでる。はらをはきあげておたかないようにしてはらをつけている。
  - ・エサをあけると、吸い取るようにくわえて水中に持って行って食べる。

く信じてかんじたこと 全長が10cm未満、泥質のひがたに生くする。全国で呼び方がちがうトビハゼ(高知のネムツバ川)カサノカ、ホトツ、イ左衛門、カタハゼ(筑本)など。胸びれの骨には4本の骨が並んでいて筋肉が発達している。腹びれは吸(おた)になっている。トビハゼの中間には、まじの腹びれや葉ネククのような開知腹びれを持つ種類がある。

皮膚には毛細血管が発達しているため、皮膚呼吸に役立つ。呼吸は皮膚呼吸とエラ呼吸の2種類。陸上では皮膚呼吸がエラ呼吸の4倍。トビハゼは皮膚呼吸ができて体内のアンモニアをアミロに変えることもできるため、空気中で生活できる。はら其用になるとオスは変化して、おたかない、おたかないなどを見せる。

くかんさつしてかんじたこと オス、メスの切りかわりなかつた。オスははら、ききにピンクになる。ほくのトビハゼもピンクになつた。かエサがエビ、アサギで赤いので、フジツのように食べ物で赤いまうで体がピンクになつたのかもしれない。こうまの下に生くきがあるが、肉かんでは差がかんさつしなかつた。

く感想 トラハゼは他の魚にまねてきないくちうかた、くさんありました。とても不思議な魚でした。おどろき発見が、いっほいでした。これからトビハゼのことを信じてたいです。